

ゼレンスキーがキリスト教僧団の追放を是認する

RT

March 13, 2023



このウクライナの指導者は、歴史的なキエフの Pechersk Lavra 寺院を押収することは、「霊的な独立」を強化することになると考えている。

ウクライナ大統領ウラジミール・ゼレンスキーは、キエフの Pechersk Lavra の正教会の僧団 (Caves 僧院とも呼ばれる) を追放する命令を出し、彼らはロシアのスパイであるかのように言った。モスクワは、すべてのキリスト教会、国連、その他の国際的組織に呼びかけ、この「無謀な」決定に対決するよう求めた。

「今週はまた、我々の霊的独立を強化する動きがあった」とゼレンスキーは、日曜日夕刻、国家への週ごとの演説で言った。「我々はテロリスト国家に、我々の神聖な場所——我々の Lavra——を破壊させ、またそこから価値ある物品を盗ませて、我々の人民の霊性 spirituality に容喙させる機会を与えてはならない。」

彼はまた、彼の政府が取っている手段は、「完全に法的なもの」で、ウクライナの民衆の十分な支持を得たものだと主張した。

金曜日、ウクライナの文化担当長官は僧団に通告し、彼らは 3 月 29 日までに僧院を明け渡さねばならないと言い、国家が彼らに認めた、国の歴史的保護区を管理する、2013 年の合意を破ったと主張した。 <https://www.rt.com/russia/572773-kyiv-pechersk-lavra->

[zelensky-eviction/](#) 1051年に創設された Pechersk Lavra (Caves 僧院) は、ウクライナの最も中心的な東方キリスト教サイトと考えられている。

キエフはすでに、ウクライナ正教会 (UOC) を、僧院より上の2つの大聖堂から追放している。その決定の数日後、1月初めに、**政府の創った**ウクライナ正教会が、この敷地で宗教儀式を行うことを許された。

UOCの僧たちは立ち退き「命令を実行するつもりはない」と、月曜日、僧院長は言った。教会の長である Metropolitan Kliment は、金曜日の通告は個人的な文化担当者の意見で、法的な権限はないと言った。UOC はロシア正教会と連絡を取っているが、自ら独立を宣言しており、**ロシアの「侵略」はウクライナ政府の気に入られるためだ**と言った。

僧たちを追放しようとするキエフの動きは、「受け入れられず」また「絶対に前例のないものだ」と、クレムリンの報道官ドミートリ・ペスコフは、月曜日に語った。「我々は、世界の共同社会がこれに反応し、こんな言語道断な決定はないことを、認めるべきだと考えている。」

土曜日、ロシア正教会は、この追放を、共産主義下の正教会聖職者たちの追放にたとえた。

<https://www.rt.com/russia/572822-ukraine-orthodox-monastery-patriarch/>

このような動きは、何百万というウクライナ正教会信者の権利を、否定することに繋がるだろう」と、総主教 Kirill は、国連、他の正教会ヘッド、ローマのフランシス法王、カンタベリー大司教、アレクサンドリアのコプト教会法王 Tawadros 2 世、その他に送った手紙で訴えた。

[訳者 Greatchain 注]

これは中国共産党によるチベット仏教の弾圧や、かつてソ連で、聖堂が牛小屋に改造されたという事件を思わせる。ゼレンスキーのウクライナによる、この行動は何だろうか？先日の NHK の特集番組では、ウクライナ政府は自国の伝統的宗教を大事にしており、破壊者はロシアだと言っていた。

ロシアがこの暴挙を、世界の宗教界に訴えていることから考えても、この正教会が、ロシアとウクライナに共通のものであり、元々、この両国が争うような間柄でなかったことがわかる。紛争の根源は、アメリカがウクライナに突きつけて起こしたクーデタであり (ビクトリア・ヌーランドが中心にいた)、最後には、ネオナチを主体とする反露過激集団がウクライナ軍を牛耳るようになった。

ロシアの「侵略」は、反露西側がうまくタイミングを合わせて、ロシアに行動を強制したものであった。ゼレンスキー大統領は、CIA によって大事に育てられた、貴重な NWO グローバリストの傀儡として、そのタイミングに乗って行動した。

ゼレンスキーは骨の髄まで、中国共産党と同じ宗教破壊者として飼いならされている。これは今アメリカで、最も迫害を受けているのは、キリスト教徒だと言われることに通ずる。この宗教破壊が彼の信念である以上は、「停戦」に応ずることはないだろう。

ゼレンスキーは先頃、ロシアは国号を改めて Moscovia にせよという、大胆な提案をして、ロシアだけでなく世界を笑わせた。わが国には、これを真面目に受け取って、密かに宗教破壊を支持する人々が、かなり多いのではないだろうか？